

常新日新聞

定価 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
廣告料 五割増し 電話一五五五
日曜紙 毎週日休刊
発行所 常新日新聞社 電話六三〇〇
印刷所 常新日新聞社 電話六三〇〇

昔話

吉本茂樹

昔話です。お社には御神體がお祀りしてある位な事はどんな人でも知つてゐる事です。ところがある田舎のお社にお祀りしてある御神體と言はれるだけあつてほんとに不思議な御神體であつました。

みなさん！ 麻桶にいつた一本の毛、これが御神體と言へば大抵の人は嘘だらうと言ふに違ひありませんけれど事實そうなんですから間違ひはありません。

若し人間が悪い事でもしますとこの一本の毛はグン／＼のびます、グガ／＼ふとります。そしてその先きが二つにも三つにもわかれてその人間をしばつてどうする事も出来ない様にしてしまいます。

ある晩の事です。こんな事は夢にもしらぬ山賊の一行がこの村へも嫁ぎに参りましてお社の境内で集合しました。

頭と言ふのは眼の鋭い背の高い顔一面に毛だらけでみるからに恐ろしさうな男でした。

一手下ども、この村の一番の金持儀右衛門の屋敷をおそへ」と命令を下しました

「頭！ 承知しました」と一群の山賊は儀右衛門の宅へと侵入してゆきました。

門を破る者、下男をしばる者、主人をおどす者、さながらの地獄。

その結果？

山賊等には豫想以上の好結果です。たぐさんの金、たぐさんの品物をニコ／＼とお社の境内へと運びました。

山賊共は、あまりに多い獲物に有頂天になりました山の様につんだ獲物を中心

- 明日の献立
○朝味噌汁 切干大根 小皿 しそ巻梅干

【朝味噌汁 切干大根 小皿 しそ巻梅干】

【晩】メンチボール付合せ (人參 バタ いため さつま芋 マツシマ)

清汁(白順干 わか)

にその分配が始まりました山賊共は少しでもその分量が自分に多い様に争ひはじめました。

「俺が門を破つたのだから一番多くもらひたい」といふ甲の聲に應じて「いや俺が下男をしばつたから俺こそ一番多くもらひたい」と乙の聲が聞えたかと思ふ



雑詠(舊作)

窪田 志郎

とはく電車が軌る、たまらない郷愁の流れにゐるこの鬱陶しさ

夕げの支度に一しきり盛る市場、主婦らの雰圍氣にふれる微笑しさ

暮れが光り私たちも夕げの支度忙しくかち／＼食器を揃へる

芦の葉さやさや鳴り五月の色調に生々としてゐる肉體

波の光り舟べりにあがる飛沫のころろよい肌ざは

井坂醫院

平町 田町 電話五九五九番

呼吸患救済の王... 陸海軍御用 帝國大學醫學部御用 官公立醫學專門學校御用 吸入用酸素 體溫計(メイトル) 御用命次第迅速に御届け致します 平町古鍛冶町一〇縣社ノ下 處方箋調劑所 阿康藥局 電話 四四四番 振替口座東京三〇六五番

奉祝平町鎮座縣社子銚倉稻荷神社 廣告祭假裝行列大會

一、四月十七日(宵祭) 参加店主參列商運隆盛祈願式
一、四月十八日(渡御祭) 廣告假裝行列町内行進の上審査會を縣社境内に於て行ふ

一、賞品 一等榮譽ある平町長優勝旗並に賞金拾圓副賞付、二等以下十等迄高級賞品を進呈、参加者には中食付記念品進呈、時間、行列行進順序、審査員、賞品其他追つて詳報す。奮つて御参加を乞ふ

後援 平町役場 縣社子銚倉神社 平各新聞社 主催 いはさ新報社 高木喬

呼吸患救済の王...

陸海軍御用 帝國大學醫學部御用 官公立醫學專門學校御用 吸入用酸素 體溫計(メイトル) 御用命次第迅速に御届け致します 平町古鍛冶町一〇縣社ノ下 處方箋調劑所 阿康藥局 電話 四四四番 振替口座東京三〇六五番

高久病院

院長 醫學士 高久忠 副院長 新潟醫學士 赤羽清 藥局長 藥劑師 佐竹菊雄

内科小兒科 外科花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科

町田 電話五二三番

石炭

平驛前 阿部石炭店 電話三十七番

小店員募集

●頭と身體の働く人 西村屋藥局 平二 電三

魚清食堂

平二警察署裏通り 電話六六三三

毎度特に御引立に預りまして厚く御禮申上げます、寒かつた冬も何特の間にか過ぎ去りまして楽しい春が訪れて参り、加へたもふ櫻も二旬の後に追つて來ましたすし折詰や魚折詰の品物が段々入荷致しました、何卒お花見には多少共御下命の程伏してお願ひ致します。

乍末筆來る春と共に皆様の御健康と御繁榮をお祈り致します。

公會堂の敷地

博覽會跡を適當と

昨日の委員會で決定

財源全部起債

平町公會堂の敷地は委員會に於て種々調査中の處昨日午後一時より會議室に

坂本、野崎、小松、萩原、佐々木、川崎

の各委員參集協議の結果過般の町會に當局が提案した

仲町通りの町有地(博覽會跡)を適當の敷地と決定、

尙ほ建設費八萬圓の財源は六萬圓を起債に仰ぎ残る二

萬圓は寄附金を以つて充當する豫定であつたが寄附金

の如き不確實な財源を提示するは起債不許可の懼れありとの縣當局の内意があつた爲め八萬圓全部を起債に

俟ち寄附金は償還財源に當てる事となつた由

平町會開く

公會堂敷地

問題再検討

平町は来る三十日町會を召集し午後一時から會議室で左記案件を附議する

一、十年度歳入出豫算追加の件

一、公會堂建築費起債の件

一、第二小學校齒科醫死亡に付弔慰の件

一、汚物掃除契約繼續の件

一、寄附採納の件

一、區長代理者推薦の件

好間出身の

吉田一等兵

露領に拉致され

生死未だ不明

本郡好間村出身吉田一等兵は去る二十五日在滿延吉駐屯梶原部隊の吉田中尉以下八名と共に暉春縣長嶺子附

近の國境線視察中午前八時七分頃突如ソビエツト・ゲ・ベ・ウの一隊より狙撃され吉田中尉、福島少尉、小倉

仙工合格

警中より四名

過般施行された仙臺高等工業學校の入學試験合格者は今廿八日發表されたが志願者一千七十五名中百七十七名選抜の難關を突破した警中の秀才は左の如くである

△機械工學科 小林照男

△文科甲湊徹郎△理科乙敷島欣一

水高の合格者

警中卒業生の水戸高等學校試験合格者は左の如くである

△文科甲湊徹郎△理科乙敷島欣一

昨今の平驛

連日增收續く

舊節句と學年休を重復して迎へた平驛は二十六日から俄かに乗客が殺到彼岸中瀝り勝な天候に祟られ一日乗客六七百位收入七百圓前後であつたのが二十六日は乗車千五百六十九名、降車千三百九十七名と押し寄せ賃金も一躍千三百三十一圓に増加し昨廿七日も乗車千八百八十九名、降車千二百六十五名、收入千九百九十二圓の増加尙當分はこの増加が續く

繭の檢定

特約組合も

料金を徴收

繭工場市場等に連絡ある繭

八千代 横山トメ 吉田 義子 玉木静 田名綱キ

イ 高島龜代 坪井キヨ

ノ 根本進子 青天目操

長瀬ヲル 鶴沼トキ子

飯田ツネ 大友チエ 大

平滋代 大戸千代 熊谷

米子 熊谷咲子 熊谷君

子 九鬼ヒデ 矢吹芳枝

藤原花子 小松愛子 小

松ヤスヨ 小泉文子 赤

津好子 佐々木欣子 齋

藤愛子 澤田スミエ 佐

藤歌子 佐藤キミエ 木

田弘子 下山田不二 四

家秋子 柴田恵子 平野

ハツミ 平山ミサ 鈴木

トク 鈴木和子

小林判事赴任 福島

地方裁判所兼福島區判事に

榮轉した平支部判事小林登

一氏は今廿八日午前十一時

十分平發列車で赴任した

郵便法規研究 平野

便局は来る三十一日午後一

時より局樓上で郵便事務法

規研究會を開く

草野信用總會 草野

信用組合總會は廿八日午前

十一時から同村小學校に開

き幹部役員の改選を行ふ

泉信用の協議 泉村

信用組合總會は今廿八日午

前十時から小學校に總會を

開き本年度事業その他を協

議する

平職業紹介所報告

おでんと やきとりで お氣輕に 一平

五日 開店 谷口通 電話二六三番

出前迅速

有給社員募集

一、地方擴張ノ爲男女十數名募集ス

一、資格者 經驗ノ有無ニ不拘指導ス

一、但シ誠意奮闘家ヲ望ム 希望者ハ

午前中當出張所へ面談アラレタシ

野村生命保險株式會社 警城出張所 平町長橋町四七 主任 福島 健之

吉田眼科醫院

平紺屋町 電話六八番 醫學士 吉田 久雄

今曉昭和人絹焼く

死傷者廿二名

損害三百五十萬圓

原因は不明

二十八日午前一時二十分頃、錦村昭和人絹會社で男工四百名が深夜業の最中精練所乾燥室から發火、見る見る勢を増し、バルブ倉庫、室、巻取室、排空室、バルブ整理室、タンク室等の精練所全体に燃え擴がり、渦巻く火炎と、貯藏藥品が散亂して放つ猛烈な毒臭に包まれて折柄作業中の職工四、餘名が算を亂して逃げ場を求め、凄惨な修羅場を現出したが早くも駆けつけた地元並に隣接町村消防組の外、遠く平町及び茨城縣松原町から駆けつけた消防組が必死の消火作業で精練

所一棟と隣接本工場約六千坪を全焼して鎮火した、尙同工場は本月初旬竣功漸く最近作業を開始した増設建築場である

精練所主任技師林太郎(三)職工赤津昇(三)鳴原藤吉(三)原田環(三)の四君は逃げ遅れて無慘にも焼死し職工大和田徳雄外十八名の重傷者を出した、原因並に損害は目下調査中であるが損害は約三百五十萬圓餘の莫大な額に上るべく在京中の高橋社長以下が急遽來村して現場の指揮に當り焼死者四名の遺骸はひと先づ工場内に安置した

高橋社長來村し

直ちに復舊工事

類焼を免れた藥品工場は

平常通りに従業

することゝなつた

別項：大火の報に接して急遽來村した高橋昭和人絹社長は現場整理の指揮に當ると共に直に復舊工事を開始することになり幸ひ類焼をまぬがれた附近の藥品關係工場は平常通り従業を續け

好問村報發刊 好問村役場では過般來各種團體の統制連絡と産業教育、國防思想等の向上發達に資するため村報發行を計畫中であつたが此程經濟更生指定

平驛團體出發 既報平驛で豫て募集中であつた茨城縣川尻町の養蠶神社參詣團體は豫定の五百名に達したので今廿八日午前八時十七分特別列車で出發したが午後五時二十一分歸平す

磐崎坑爆發

八名が重輕傷

磐崎村磐城炭礦長倉礦第二坑内四百米の地下で廿七日午前十一時半頃採炭十餘名が爆破作業中突如火藥が轟然爆發、左記八名が重輕傷を負ひ直に所屬炭礦病院に收容手當中、尙平署からは草薙巡查部長並に渡邊(定)部長が現狀に向つて急

行した 重傷中島義雄(三)輕傷渡邊壽平(三)村松武平(三)小林潔(三)岩戸義雄(三)坂本太郎(三)村松重三郎(三)人見三吉(三) 重傷の中島は内出血多量のため生命危篤

氣をさかして

此の椿事

別項：磐崎村炭礦長倉礦第二坑内の火藥爆發事件に就いて平署で原因調査の結果

爆破作業に際して電流線接

明日のラジオ 廿九日 天氣 薄く 明日は南の風 曇り

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間 連續童話劇「續チヨビ物語」お城へかける B.K.コードモザイク 後六、二五 講演「我が蠶糸業に就いて」松平頼壽 女聲合唱團 J.M.A 後七、三〇 齊唱 後七、三六 立體漫談「僕らのスゴアブック」松井翠 聲外

明日の部 後七、三〇 小鳥の啼聲 前九、三〇 子供の時間 「童話とラヂオ紙芝居」佐々木行綱 青い鳥童話音 後一〇、〇〇 日曜勤行 「夢窓國師開山忌法要」臨濟宗西芳寺より中繼 前一〇、四〇 趣味講演 「春のヒマラヤ」石橋光瑤 前一一、〇〇 講演「農村の榮養問題」根本四郎 前一一、四〇 全國選抜野球大會實況「甲子園球場中繼(定時中繼)」 後一〇、五〇 滿洲よりの講演「北鐵接收後のハルビン」佐原憲次

蠶糸祭に

片倉の演藝會

平町磐城片倉工場は本廿八日正午より講堂で蠶糸祭を舉行式終了後男女工の演藝會を開いた

これは爆發の際には常に電流線は班長の中島義雄(三)がやつてゐたものを採炭夫中の某が氣をさかしたつても班長に無断で接続を行つたため誤つて信號線を直接電流線に接続、現場より一同が引揚げる以前に爆發して此の椿事を惹起したもので平署渡邊定造部長は本廿八日午前九時半現場に再出張して現場調査と共に接続した採炭夫を取調べ中であるが業務上過失傷害となる模様である

逃げた女房を

驚かして放火

納屋一棟を焼き

けふ放火罪で收容

双葉郡大久村大字小久字町内前一六二根本留由(三)が去る十九日午後三時頃泥酔して自宅傍の納屋の前の積薬に放火し納屋一棟を全焼した事件は今廿八日放火罪で起訴と決定即日同人は平務支所へ護送收容された尙放火の原因は前夜夫婦喧嘩の末家出した妻マヌエ(三)が家でも焼れば驚いて戻らうと思つて右犯行に及んだものである

平町人事

回出生

△大工町二六當時北海道常呂郡留邊藥町字武華市街地三修通り一丁目宮本宇一郎氏長女静江さん △仲岡町四八當時東京市芝區芝浦二丁目一赤壁光一氏二男那茂さん

四倉藝妓組合

卅年記念に參詣團

四倉町藝妓屋組合では組合創設以來丁度三十周年に相當するので料理店旅館の得意先三千餘名を招待して茨城縣笠間稻荷及び千葉成田不動尊、佐倉宗五郎神社を參詣すべく廿七日午後七時

四倍強の

賣店申込

既報四月の櫻花期間中松ヶ岡公園内に賣店を設ける申込は昨廿七日午後締切つた

△横濱市鶴見區菅澤町一及川陽三氏(三六)立町二長瀬富士子さん(一七)

繞る瓦解の謎

（著上） 悟道軒圓玉（作） 丸尾至陽（書）



八三 一掘りの金

お花は二人のかごを見て
花「かういふ事もあらかと
思つてゐたが、こゝは谷中
の天王寺だね」
民「へエさうでございます
都合に依つて根岸が天王寺
に越しましたよ」

花「こんなところにつれて
来たはわたし持つてゐる
この文庫がお前たちの目
についたね」
民「へエ、目にはつかねえ
がみつちり肩に應へました
さア御新造こつちへお出で
なさいまし」

花「かごに乗つてゐては話
をすることも出来ないから
かごを出て色々お前がたの
すこい科白を聞くことにし
やうかね」
と文庫を抱へてかごを放
れたお花吾妻下駄をばいて
重の塔の縁まで来た、かご
かきの提燈のあかりはうつ
すらとあたりを照らす、數
百年を経た松の立樹はさな
がら巨人のやう、その間を
ぬつて櫻は花を着けてゐる
その時かごかきが
民「御新造、お前さんのお
察しの通りそこに持つてゐ
る文庫の中が氣になつてこ
んなところまで連れて來ま

したが、何うぞその中を見
せておくんないまし」
花「この中はお金さ、見た
ければ見せてやるよ、よく
お目をとめて御覽下さい」
と云ひつゝ五重の塔の縁
に文庫を置きさりと蓋を
拂つた時に、提燈の光り



民「おい文太郎、聞いたか
有るところにはあるものだ
なこの金は小遣ひだよ」
文「いやだ、そんなこ
とを聞くと稼業がいやにな
る。一日に二米か一步取る
ために大の男が二人揃つて
一人の人間を運んであせを
かき流して苦勞する、それ

民「おい文太郎、聞いたか
有るところにはあるものだ
なこの金は小遣ひだよ」
文「いやだ、そんなこ
とを聞くと稼業がいやにな
る。一日に二米か一步取る
ために大の男が二人揃つて
一人の人間を運んであせを
かき流して苦勞する、それ

民「おい何にそ
んなにお貴ひ申
してはすまねえ
この内をいくら
かほどこしてお
くんない」
花「それではこ
れだけ持つて行
つたらいいだら
う」
無難作にその
金をつかんでズ
バリと前へ投げ
た

民「有難い、
どうも濟みませぬね、こん
なに頂いては、オイ文太郎
御新造が小遣ひを下すつた
ますね」
文「何だと、酒代をくれた
と、一つかみの金がそれほ
ど嬉しいか、はなしやな女
の手につかんだその金は卅
兩か五十兩、目の前に大金
がありながら五十や三十の
はした金では笑ひ顔は見せ

民「おい民や、これを見ろ
大したものだぜ、御新造何
うしてこんな金を持つて
ゐなさるね」
花「亭主と喧嘩してね、根
岸のさとへ歸るつもりで戸
棚にあつた小出しのお金を

民「おい民や、これを見ろ
大したものだぜ、御新造何
うしてこんな金を持つて
ゐなさるね」
花「亭主と喧嘩してね、根
岸のさとへ歸るつもりで戸
棚にあつた小出しのお金を

民「おい民や、これを見ろ
大したものだぜ、御新造何
うしてこんな金を持つて
ゐなさるね」
花「亭主と喧嘩してね、根
岸のさとへ歸るつもりで戸
棚にあつた小出しのお金を

られねえ、
と文太郎は叫んだ。

看護婦急派
求めに應じ
ます

平町南町
平看護婦會
電話三〇七

花環 神佛葬具
盛花
久壽玉
御用燈
寶明燈
靈柩自動車

造花

は 明川新平
屋本橋
三六一電

通學服

新學期

新學期が近づきました。
可愛らしい坊ちゃん嬢ちゃんの
通學服を豊富に取揃へて特價奉仕

- 黒 小 倉 1.20ヨ
- " (特製) 2.30ヨ
- 紺 金 釦 服 3.60ヨ
- 紺 K O 型 4.00ヨ
- 第二・第三・制服 3.60ヨ
- 紺 セーラー 2.60ヨ
- 防 水 マント 1.20ヨ
- " (裕) 1.65ヨ

平三 ぶかや洋服店 電203

平屋洋品店
平町通電話六五六番

店主が	を	か	正	正	正
行	連	れ	シ	シ	シ
て	れ	る	イ	イ	イ
行	て	る	酒	喫	食
行	て	る	場	茶	堂

平・田町
レストサロン
電三五二番